

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	良好なサードプレイスの立ち上げと運営	玉名市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	玉名温泉をサードプレイスに～運動することで健康を保持しよう～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	Hot Springs in 玉名		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3. 学生	
メンバー数（公開）	3 名		
代表者情報	藤 和矢		
代表者の自治体との関係（非公開）	松上 弘一 芦田 柚月		

#### 【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

**（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。**

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

## 同じ趣味を持った人同士のコミュニティの作成

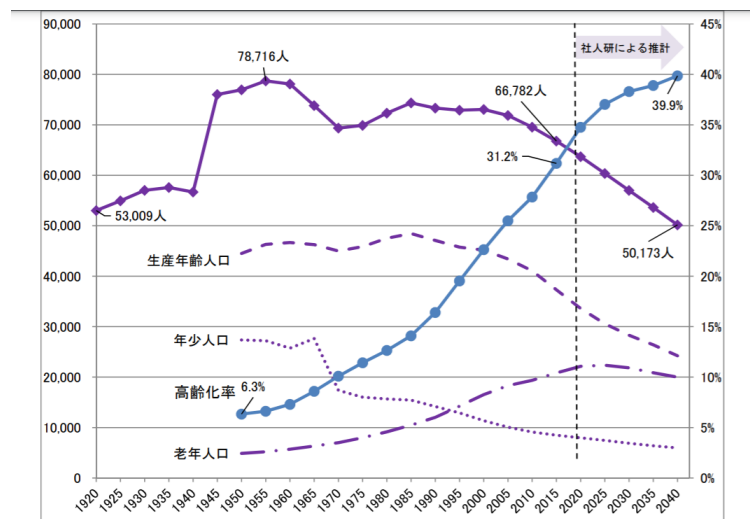
<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで…>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

### 玉名市の現状

玉名市が2020年3月に発表している「玉名市人口ビジョン」によると、年々人口が減少していくことが分かる（右図参照）。人口が減ることにより自然と地域コミュニティが小さくなっていく。そのため、様々な活動の縮小が懸念される。つまり、これまで地域コミュニティが保持してきた支援機能（例えば、病気や介護が必要な高齢者へのサポート）の低下が予想され、その結果住みにくい街となり、さらに人口減少へとつながる負のスパイラルが生まれようとしている。そのうえで、高齢化率は2015年に31.2%、2040年に39.9%になると予想される。すなわち、支援を必要とする高齢者も増えると考えられるなか、対策が必要である。これに対する最も効果的な対策は高齢者自身が健康になることだと考える。しかしそれは、高齢になってからばかりでなく、子どもの頃から健康に気を付けていく必要があると考えた。そこで以下の方法を提案する。



出典：総務省「国勢調査」（1920～2015）、国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」（2020～2040）

出典：玉名市人口ビジョン（2020）

#### ①温泉街をゴールとした定常的なマラソン大会

まず短期的には、温泉街をゴールとしたマラソン大会を開催する。各世代が楽しく走れるように、それぞれの体力に合ったマラソンコースを複数作成する(3, 5, 10 kmなど)。さらに季節ごとに変わる景色を楽しめるようにコースを複数作成する。そのようにすることで参加者が飽きないマラソンを提供することができる。そして年に一度ではなく、季節ごと、またそれ以上の頻度で定常的にマラソン大会を開催する。そして、これらのゴールを温泉街とする。つまり、走った後にそのまま温泉を利用し疲労回復をすることができる。定常的な開催とゴールとしての温泉、これが本提案のポイントである。

## ②温泉街の近くに運動施設の設置

さらに長期的な戦略として体育館など、誰でも気軽に通えるような運動複合施設を温泉街に設置する。そこでは、様々なスポーツを行ったり、ジムやヨガ教室などに参加したりすることができる。施設を利用するときには、チケットを購入して入場できるようにする。施設を利用した後にそのチケットを温泉街で見せることで割引を行う仕組みを作る。さらに1年間の定期パスポートも発行して、頻繁に利用する方がお得になるようにする。これを温泉街と体育館等の運動施設を合わせ、官民共同のスポーツジムを運営するイメージのもと市の施策として行い、体育館等の経費をねん出する原資とする。

## 温泉街をサードプレイスに

これらの事業を行うことで、温泉街の利用客が増え、温泉街自体をサードプレイス化することができる考えた。運動をし、温泉に入ることを習慣化することで高齢者になっても健康に元気に過ごすことができる。さらに、マラソンなど同じ趣味を持った人同士が温泉街で交流することで、コミュニティを形成へとつながっていく。

(参考文献)

玉名市人口ビジョン, 熊本県玉名市, 2020.3, 最終閲覧日 2020年12月10日,  
[https://www.city.tamana.lg.jp/dl?q=73566\\_filelib\\_424e976b99563eb7f11627668f2b0539.pdf](https://www.city.tamana.lg.jp/dl?q=73566_filelib_424e976b99563eb7f11627668f2b0539.pdf)

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞

＜先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

## はじめに

玉名市は温泉が有名なため、その地域資源を生かしてサードプレイスを作り出せないかと考えた。玉名市の温泉は、神経痛や五十肩、慢性消化器病、疲労回復などの様々な部分に効果があり、それらは入浴するだけで私たちの身体に良い効果をもたらしてくれる。また、コミュニケーションをとるためには、同じ趣味を持った人同士の方が、より取りやすいのではないだろうか。会話の糸口を見つけるにはまず相手に好きなことを尋ねるなどして会話を膨らませていくイメージを、私たち全員が持っていた。そのため、運動という共通の趣味の後に温泉街で出会うことで、繋がりが生まれやすいという考えに至った。さらに運動をすることで、生活習慣病の予防や体力・筋力の維持及び向上、抵抗力が高まるなどの肉体的な効果と、認知症の低減やストレス解消などの精神的な効果を同時にもたらしてくれる。健康に長生きするためには運動は欠かせないことであり、そこで温泉街とマラソン大会及び運動施設を組み合わせ提案した。

## 運動施設設置の理由

温泉街に体育館といった運動施設を設定できないかと考えた理由は、運動をした後、すぐに汗を流してリラックスをしたいと考える人が多いのではないかと考えたからだ。玉名市の代表的な体育館、玉名市総合体育館にはシャワー室がある。しかし、シャワーを浴びるだけではしっかりと体を休めることができない。とはいえ、離れた温泉街へ疲れた体で赴きたくはないだろう。玉名市総合体育館と温泉街とはバスでつながっているが、1時間に1、2本程であった。車を運転できる人が必ず同行しているわけでもない。このことから、近くに体育館等を設立すべきと考えたのである。しかし、近くに体育館があるからといい、毎回通うとは限らない。そこで、体育館利用者は温泉を利用するときに割引を行う仕組みを考えた。

## マラソン大会開催の理由

マラソン大会を開催しようと考えた理由は、定期的な運動をしてもらいたいと考えたからである。玉名市のマラソン大会、「玉名いだてんマラソン」「横島いちごマラソン大会」はそれぞれ年に一回しか開催されない。この頻度では継続的に運動をすることはできず、大会に参加しても満足いく結果が出ないかもしれないのである。そこで、季節ごとに開催することで、走る頻度を高めることができるのではないだろうか。また、様々なコースを設定するため、一年間を通しての目標も立てやすい。例えば春では 3 km がぎりぎり走れたから、夏では余裕をもってゴールできるように、秋では 5 km に挑戦しようなどという目標を立てることができる。先が近いことでやる気を出して継続的に走ることができると考えたため、定常的なマラソン大会開催を提案した。

（参考文献）

くまもと湯美人, 玉名温泉熊本県玉名市立願寺, 最終閲覧日 2020 年 12 月 14 日,  
<https://kumamoto.guide/yubijin/onsen/detail/10>

タニタ, 運動の重要性とその効果, 最終閲覧日 2020 年 12 月 14 日,  
<https://www.tanita.co.jp/health/detail/17>

玉名市, 玉名市総合体育館 利用案内, 最終閲覧日 2020 年 12 月 14 日,  
<https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/429/5606.html>

玉名いだてんマラソン 2020/第 43 回横島いちごマラソン, 最終閲覧日 2020 年 12 月 14 日,  
<http://ichigo-marathon.jp/>



## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま>

アイデアを実現する主体

玉名市役所、温泉観光旅館組合及び温泉旅館、市内スポーツ愛好家の集まり（特にマラソン）

アイデアの実現に必要な資源

## ・大まかな規模（マラソン大会）

ヒト：市内のマラソン愛好家、温泉旅館の経営者、警察

モノ：マラソン大会に必要な物品のほか、参加景品として配布するもの（手ぬぐいなど）

カネ：マラソン大会の運営費

※運動施設については長期的な視野での検討が必要なため、マラソン大会の実現を試金石として捉え、変更して実現化の可能性を検討する。

## ・現実的な調達方法

玉名市役所の仲介のもと、温泉観光旅館組合と協議し、温泉旅館の協力を要請する。また運営費については、大会参加者の参加費を基本として考える。

アイデアの実現に至る時間軸を含むプロセス

## マラソン大会の予定

3月	温泉観光協会をはじめ、関係機関と協議、実現に向けた合意を形成 道路規制を警察に相談
4月	市内マラソン愛好家による試走のもとコース（春）設定
5月	イベントの告知方法など広報戦略を協議
7月	市内マラソン愛好家による試走のもとコース（夏）設定
8月	大会詳細の決定、ホームページ・告知ポスターの作成、広報活動スタート
10月	市民の皆さんへの告知(市政だより、ショッピングセンターなど)、募集開始
11月	市内マラソン愛好家による試走のもとコース（秋）設定
12～1月	大会スタッフの募集 市内マラソン愛好家による試走のもとコース（冬）設定
2～3月	大会の準備、下見

※運動施設の設置は、長期的な活動が必要となるためマラソン大会を実施しながら、その可能性をリサーチし、現実的なプランを策定するものとする。